

執筆要綱

1. 論文は和文または英文とします。英文の場合は、英語を母語とする外国人に校閲を受け、所定の校閲証明書を添付してください。
2. 原稿は Microsoft 社の Word (DOCX) 形式で保存してください。すべて横書きとし、頁設定を A4 縦、原則として 40 字×30 行にしてください。図表は PDF 化しないもの、写真はそのまま掲載できる鮮明度のものを送ってください。当方でトレースをした場合は実費を徴収します。
図、表、写真の挿入箇所を、本文原稿の欄外に、図○、表○、写真○と赤字で記載してください。また、図、表、写真の一覧を作成すると同時に、各々の図、表、写真の説明は別の用紙に一括して記載してください。
3. 原稿は以下の体裁で作成してください。

- 1) 表紙 (フォーマットを使用し、下記情報を記載してください)

論文情報：論文題目 (日本語・英語)、論文種別 (投稿区分)、日本語のキーワード (5 語以内)、英語のキーワード (5 語以内)、本文の文字数 (要旨、文献を含む)、図表・写真の個数

著者情報：筆頭著者・共著者の姓名 (漢字表記、仮名表記、英語表記)、筆頭著者・言語聴覚士である共著者の協会会員番号、筆頭著者と共著者の所属 (科名まで) と所在地 (日本語・英語)、筆頭著者の連絡先 (住所、電話番号、FAX、e-mail アドレス)。

- 2) 論文原稿 (頁番号と行番号を記載してください)

- ①原著、総説、症例報告、短報、調査報告の場合

最初に論文題目 (日本語・英語)、論文種別 (投稿区分)、日本語要旨 (400 字以内)、日本語のキーワード (5 個以内)、英語要旨 (200 語程度)、英語のキーワード (5 個以内)、本文の文字数 (要旨、文献を含む)、図表・写真の個数を記載する。

本文の構成は、原則として以下のとおりとする。

I. はじめに、II. 方法、III. 結果、IV. 考察 (結論を含む)

- ②レポート「現場最前線」の場合

最初に論文題目 (日本語・英語)、論文種別 (投稿区分)、和文要旨 (400 字以内)、日本語のキーワード (5 個以内)、英語のキーワード (5 個以内)、本文の文字数 (要旨、文献を含む)、図表・写真の個数を記載する。

本文の構成は、原則として以下のとおりとする。

I. はじめに、II. 方法、III. 結果、IV. 考察 (結論を含む)

- 3) 利益相反、謝辞、文献、註

本文原稿の最後に上記の順序で記載する。

利益相反関係がある場合は、関係する企業・団体名を記載する。また、研究費の補助を受けている場合、公的機関や私的企業の名称等を明記する。

記載例)・開示すべき利益相反は存在しない。

- ・本研究は○○から資金提供を受けた。
- ・本研究は○○から実験装置/測定機器の提供を受けた。
- ・公的研究費を受けた場合は、下記を参考にその旨を記載してください。

例) 本研究は、日本学術振興会科学研究費、令和○年～令和○年○○研究 (○)、課題番号○○、研究課題名○○、代表者○○、の資金を用いて実施した。

4. 外国語名 (人名、薬品名など) は原語のまま用い、ワープロを使用するか、活字体で明記してください。ただし、日本語化しているものはカタカナ書きしてください。学術語はできるだけ訳語を用い、必要に応じて () 内に原語を入れてください。数字は算用数字を用い、度量衡単位は、m, cm, mm, cm², ml, l, dl, kg, g, mg, などを使用してください。
5. 論文の文献は、本文に引用されたもののみとします。
 - ・本文中に文献を引用する場合は、その個所の右肩に ¹⁾ や ^{1,2,5-7)} のように記す。

- ・引用した文献をまとめて文献一覧を作成し、本文文末に記載する。文献一覧は引用順に配列し、1), 2)・・・と通し番号を付す。

6. 文献一覧の書き方は統一し、外国雑誌は原則として Index Medicus に従って略号で記載して下さい。文献の著者が3名以内の場合は全員の名前を記載し、4名以上のときは最初の3名を記載し、残りは「・・・ら」、または [et al.] と記してください。著者間は英文の場合も & を入れずに、カンマで区切ってください。

[雑誌の場合]

著者名：論文タイトル。雑誌名、巻数(号数)；最初の頁-最後の頁、西暦発行年

- 例 1) 福岡達之, 川阪尚子, 野崎園子ら：嚥下障害患者に対する随意咳嗽の空気力学的測定と誤嚥の関連。言語聴覚研究, 8 (3) : 131-138, 2011
- 2) Naeser MA, Martin PI, Nicholas M, et al : Improved picture naming in chronic aphasia after TMS to part of right Broca's area : An open-protocol study. Brain Lang, 93 ; 95-105, 2005
- 3) Max L, Yudman EM : Accuracy and variability of isochronous rhythmic timing across motor systems in stuttering versus nonstuttering individuals. J Speech Lang Hear Res, 46 ; 146-163, 2003

[書籍の場合]

〈和書〉

著者名(訳者名)：論文タイトル。書籍名(編者名, 編)。版数, 出版社, 出版地, 引用頁, 西暦発行年
訳本の場合は、著者名と訳者名の両方を記載する。訳者名は著者名の後ろに(〇〇訳)と書く。

- 例 1) 笹沼澄子, 綿森淑子, 福迫陽子ら：失語症の言語治療。医学書院, 東京, 52-75, 1993
- 2) 能登谷晶子：機能性聴覚障害。標準言語聴覚障害学—聴覚障害(中村公枝, 城間将江, 鈴木恵子編)。医学書院, 東京, 292-295, 2010
- 3) Basso A (武田克彦ら訳)：失語症—治療へのアプローチ。中外医学社, 東京, 202-222, 2006

〈洋書〉

著者名：論文タイトル。In：書籍名(eds 編者名)。Xth Ed., 出版社, 出版地, 引用頁, 西暦発行年

- 例 1) Goodglass H : Understanding aphasia. Academic Press, New York, 13-39, 1993
- 2) Heim S : The language production-comprehension network in functional imaging. In : Language-normal and pathological development (eds Riva D, Rapin I, Zardini G) . John Libbey Eurotext, Montrouge, 51-60, 2006

[インターネット文献の場合]

著者名：タイトル。記述された西暦公開年(不詳の場合は省略)。URL, 参照した年.月.日(西暦年)

- 例 1) 日本社会学会：日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針。2006 (2023 改訂).
<https://jss-sociology.org/wp/wp-content/uploads/2023/03/Shishin.pdf>, 2023.7.20

2004 年 1 月 12 日制定
2023 年 6 月 16 日改訂
(2023 年 9 月 15 日施行)